

地域企業・産業資料デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する地域企業・産業資料のうち、印刷物および近代の文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものととして了解下さい。写りの悪い資料については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (5) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (6) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 27 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 15HP8021 の交付を受けて作成しています。

社報丙第二號 昭和十六年二月十七日 日本製鐵株式會社

平生社長訓示

(昭和十六年一月十五日)

本日商工大臣ノ御指示ニヨリ當社監理官小金鐵鋼局長ヨリ次ノ如キ御達シガアリマシタノデ、之ヲ諸君ニオ傳ヘスルト共ニ併セテ私ノ所信ヲ申述ベマス。

「今般其ノ社ニ於テ新體制理念ヲ具現スル爲メ事業運営ノ總アヲ社長ニ一元化シ所謂指導原理ヲ確立スベク役員ノ更新制度ノ改正ヲ行ヒタルハ時宜ヲ得タル措置ト思料セラルル處現下内外ノ情勢ニ鑑ミ鐵鋼業界ノ指導勢力トシテ其ノ社ノ使命ハ愈々重大ナルモノアリ新役員以下一致協力特ニ左記事項ニ留意シ國家會社本來ノ使命遂行ニ遺憾ナキヲ期セラレ度依命此段及通牒候也」

(昭和十六年一月一日、一三、鐵鋼第二八號日鐵監理官通牒)

(左記事項省略)

以上ノ如ク政府ニオイテモ當社方産業界ニ率先シテ新體制ヲ實踐シ指導者原理ヲ確立シタコトニ對シ多大ノ賞意

昭和十六年 社報丙第二號

ヲ表明セラレタト同時ニ、鐵鋼業界ニオケル指導勢力トシテノ當社ノ使命ノ重大性ヲ強調セラレ、役員ハジメ全従業員ガ一致協力シテ國家的的使命ノ遂行ニ邁進スルヤウ特ニ鞭撻激勵サレタ次第デアツテ、吾々ハマスマス責任ノ重大ナルヲ痛感スル次第デアル。

當社ヲ設立サレテカラ既ニ滿七年ニナルガ、モトモト當社ハ官營ハ鋼鐵所ヲ主體トシテ設立サレタモノデアツテ官營時代ノ遺風カ多分ニ殘ツテキル。モトヨリ傳統ノ長所美風ハ大イニ伸張シ、マスマス精華ヲ發揚シナケレバナラナイコトハ勿論デアル。今日公益優先トイフコトガ叫ハレテキルガ、吾々ハ最初カラ公益優先ノ觀念デアツテキルノデ世間テ事新シク騒キ立アルノガ寧ロ不思議ナ位デアル。

然シナガラ一面ニオイテ大イニ刷新改善ヲ加ヘナケレバナラナイ短所弊風モ少クナイ。製鐵業ハ元來浮沈ノ激シイ事業デアツテ西洋ニ「製鐵業ハ王者カ、然ラズンバ乞食カ」トイフ諺ガアルヤウニ、

時代ノ變遷ニヨツテ非常ナ股賑ヲ極メルカト思ヘバ忽チ
 ニシテ恐慌ニ襲ハレルトイフヤウニ、過去數十年ノ我國
 製鐵業ノ歴史ニモ幾多ノ起伏ガアツタノデアアル。官營時
 代ニハコノ景氣ノ變動トイフモノガ民間業者程ニ深刻ニ
 應ヘナカッタ。製品ガ賣レナケレバ海岸ニ由リ様ニ積ン
 デ置イテモソレデ済ンダノデアアル。トヨロガ民間業者ハ
 賣レナケレバ仕方ガナイデハ済マサレヌ。直ニソレガ
 資金枯渴ノ因トナリ忽チ破産トイウヤウナコトニナルカ
 ラ必死ニナツテ打開策ニ苦心スル。經營ノ合理化、能率
 ノ向上トイフコトヲ直劍ニナツテ工夫スルカラソコニ創
 意モ生レテ來レバ努力ノ仕様モ違ツテ來ル。從ツテ働ク
 人ノ能力モハツキリシテ來ルノデ實力本位ノ人材登用ト
 イフコトモ行ハレルヤウニナルノデアアル。新様ニ民間會
 社ニモ吾々ノ學ブベキ點ガ多クアルノデアツテソノ長所
 ハ大イニ取入レナケレバナラナイ。

イマヤ國情甚ハ刻シトシテ切迫シ戰國ハマサニ危急存
 亡ノ秋ト申シテモ輒ラスホドノ重大危局ニ當面シテキル
 坂ノ下ニ於テ 昨午十一月十一日ノ紀元節ニ關リタル昭

書ヲハジメ數次ノ詔書ニオイテ一和衷戮力時艱ヲ克服セ
 ヲト仰セラレテキマス通り、全國民ハイマコソ大御心
 ヲ奉體シ一丸トナツテ新タナル總力ヲ發揮シ難局ヲ乗切
 ラネバナラナイ。マシテ國防産業ノ第一線ヲ擔當スル吾
 々ハ不拔ノ信念ヲ澆刺タル創意ト渾身ノ努力トヲモツテ
 原料難モ勞働力ノ不足モ克服シテ一路鐵鋼ノ増産ニ邁進
 シナケレバナラナイ。ソレヲ速リ遂ゲルタメニハ制度ヨ
 リモ機構ヨリモ先ヅ人デアアル。人ヲ得ナケレバ制度モ機
 構モ決シテ動クモノデハナイ。殊ニ今日ノ如キ激シイ時
 代ニオイテハ人間ノ實力ガ第一デアアル。新體制下ニオイ
 テハ從來ノヤウナ非能率的小形式主義ハ打破サレナケレ
 バナラナイ。

私ハ人事ノ取扱ニツイテモ、前カフ云ツテキルコトデア
 ルガ、實力本位デナケレバナラナイト考ヘル。ヤレ何學
 校ヲ出タトカ、何年卒業デアルトイフヤウナコトデ人ノ
 上ゲ下ゲヲスルヤウナ生漚イ遣リ方デハ到底コノ重大時
 局ハ乗切レルモノデハナイ。今後人事ノ取扱ハ、ソノ人
 ガ果シテ會社ノ仕事ニ般ニ立ツカサウカ、才圖ニ御奉公

ガ立派ニ出来ル人物カドウカトイフコトヲ主眼トシナケ
レバナラナイト考ヘル。誰ガ見テモ役ニ立タナイトイフ
ヤウナ人ハ罷メテモラフ外ハナイ。

役ニ立ツ人デアレバ學校出デアルトナイトニ拘ラズ、年
方若クテモ多クテモドシシ登用シテユク考ヘデアル。
ソレデハドシナ人物ガ會社ニトツテ、將又國家ニトツテ
最モ必要デアルカト云ヘバ、マツ第一ニ創意ノアル人デ
アル。澄刺タル創意ガナケレバ進歩發展トイフコトハ望
マレナイ。次ハ正シイト信ズルトコロニ向ツテ斷乎邁進
スル勇氣アル人デアル。

自分ニ信念セテ勇氣モナク人ノ言フガ儘ニ右顧左盼スルヤ
ウナ人デハ到底役ニ立ツヤウナ仕事ハ出来ナイ。第三ニ
最モ必要ナモノハ責任感ノ強キ人デアル。人間ニハ必ズ
責任ガアル。親ハ親、子ハ子トシテノ責任ガアリ、社長
ハ社長トシテノ、マタ工員ハ工員トシテノ責任ヲ果サナ
ケレバナラナイ。責任感ノナイ人ハ寧ロ人トシテノ價値
ノナイモノデアルト云ツテイ、創意アリ、勇氣アリ、
責任ヲ重ンズル人々ガ職場ニ滿テテコソ鐵鋼増産ノ

使命モ達成サレ時艱モ克服出来ルノデアル。

私ガ特ニ諸君ノ奮勵ヲ促ス所以ノモノハ日ニ見エザル危
機ガ刻々トシテ迫リツ、アルカラデアル。

八幡東田第二熔鑪爐作業休止

○八幡製鐵所製鉄部第一製鉄課東田第二熔鑪爐ハ條經ノ
タメ昭和十六年一月卅一日午前九時四十分吹止メノ上
作業休止セリ

訂正

○昭和十六年社報甲第一號
日本製鐵株式會社定款變更ノ件中
第三十條改正文中「社長事故アルトキハ」ノ下ニ「豫
メ爲シタル」ノ六字脱漏ニ付加入ス